

●富田家資料、土田雪鴻関係資料は、10月15日から郷土館特別展で展示します。

富田家資料など3件を市文化財に指定

9月22日に教育委員会が開かれ、新たに3件を高山市の文化財に指定しました。

○高山町会所文書(80385点)

江戸時代の三町の町人代表である町年寄の記録。近世中後期の町人側の記録文書。

○富田家資料(1921点)

国学者・高山景判事で『斐太後風土記』を編纂した富田札彦をはじめ、道彦、豊彦、令禾まで4代の作品や著書、収集資料など、江戸

時代末期の飛驒の様子を知る貴重な資料。



ひらのごかく、たきかてい、平野五岳、瀧和亭らに学び、花鳥図、山水図などに特色ある作品を遺す。



○花鳥図 附土田雪鴻関係資料(347点)

土田雪鴻(高山二之町生まれ)は、書を長三洲、画を

問合先

文化財課
☎35-3156

●ジュニア文化祭で屋台子どもお囃子を披露

受け継ぐ誇り 次の世代へ

地域の伝統芸能の継承活動などに取り組む小・中・高校生が日ごろの活動成果を発表する「第20回ジュニア文化祭(主催/(財)県教育文化財団)」に、高山市から「高山祭り屋台子どもお囃子」八幡鳳凰台囃子組が出演します。

同組は、後継者がなくテープで行われてきた屋台囃子を平成13年、40数年ぶりに復活させ、現在も小学3年生から高校3年生までの11人が活動しています。

活動の本番である「秋の高山祭(10月9～10日)」も控え、稽古にもますます熱が入ります。

●ジュニア文化祭

10月18日(土)午後1時30分～美濃市文化会館



地域のみなさんに指導を受けながらの稽古が続きます

問合先

文化財課
☎35-3156



高山市の提案がモデル事業で採択

街道でつなぐ 歴史と文化

今年度、文化庁が実施する「文化財総合的把握モデル事業」に、高山市の提案が採択されました。

この事業は、伝統的な町並みなどの有形文化財と、祭りなどの無形文化財を総合的に把握して、一体的に保存活用を図っていくというもの。今回の高山市の提案は、日本一広大な市域にある900件を超える文化財や歴史的景観の有効的な保存と地域資源としての活用、また、街道による文化的なつ

ながりを示すことで市域の一体感の醸成を目指す内容などが評価されたものです。

今年から2年間で「城下町高山」と「城下町からのびる街道」、「街道沿いの農山村集落」の視点で、市域全体の歴史文化のこれからの取り組みの指針となる基本構想と、各地域の特性に合わせた保存活用計画を策定する予定です。

問合先

文化財課
☎35-3156



阿多野集落と御岳(高根地域)



位山官道の石畳(一之宮地域)